

町内5学園 小中一貫教育本格実施！ 計画第2期最終年

小中一貫・CS 通信

NO.24 R3.3.26 幕別町教育委員会 学校教育推進員

首都圏の新規感染者数が微増に転じ、十勝でも新たなクラスターが生まれ新規感染者の発生が続くなど、まだまだ収束まで時間がかかりそうな状況です。緊急事態宣言はすべて解除されたものの、コロナとの長期戦を織り込んだ来年度計画が必要になりそうです。

今月号は、各学園の来年度の展望についてお知らせします。

各学園、来年度の展望

まくべつ学園 (総会4/15予定)

「各自が責任感をもって一貫教育を推進する」という姿勢を明確にし、定期的な三役会議、役員会の開催で学園経営の見える化を図り、「目的、意義を明確にして必然性をもって各事業を展開することによって活動の質を向上させる」ことを重点に掲げています。

具体的には、「小中一貫して重点的に指導する内容とポイント」を活用した乗入授業等による学力向上策の具体化、児童生徒会の交流活動の充実や行事等のすり合わせ等による不登校対策の具体化、昨年度作成「地域データベース」を活用した実態把握と地域教育素材の開発やケース会議等の対象となっている子の共通理解と共通指導などに取り組むことにしています。

さつない学園 (総会4/15予定)

今年度はコロナ禍により計画した活動が行えなかった業務が多くありました。次年度に向けてその中でも行えることを検討しました。

まなび部では、中学校一日登校で小学6年生と中学1年生の関わりを深める工夫をすること、「学習五箇条」を徹底すること、小中一貫カリキュラム作成を進めること、今年度と同じやり方で出前授業に取り組むことを計画しています。

こころ部では、合唱練習DVDの活用、歌声集会再開の追求、生活のきまりの本格実施、合同あいさつ運動の継続を、かわり部では、実践交流会・授業参観交流の新たな工夫の検討、検定・学習会、部活動紹介ビデオ制作の継続を、それぞれ計画しています。

糠内学園 (総会4月下旬予定)

3月に「糠内学園危機管理マニュアル」(P55)と「糠内学園カレンダー」が完成させました。危機管理マニュアルは、糠内・明倫地区の実情に応じた安全管理体制の整備を目的に作成し、これに沿って各学校の対応について見直しを図り、それぞれの安全計画、防災計画等に示すこととしました。来年度は、本マニュアルを活用した研修に取り組むことにより、糠内学園教職員の危機管理意識をより一層高め、危機管理体制整備を進めていきます。本学園初めての取組となる糠内学園カレンダーは有効活用により学園3校の教育活動をさらに一体化させることをねらって作成しました。

来年度の事業は、小中の教職員の交流を進めること、教育局から指定されたICT活用実践事業に取り組むことを重点にしています。振興会総会の日には糠内中の修学旅行のため学園総会を2週遅らせて開催することにしています。スタートダッシュをかけるため、新年度1回目の経営会議を4/5に開くことにしています。

札内東学園 (総会4/15予定)

基本コンセプトは「令和2年度当初に立てた計画の遂行」になります。コロナの影響で学園の取組はほとんどが中止になり、成果など検証していないものが多く、それらを改めて実施することを全体で確認しています。

具体的には、①中学校登校の年3回の実施と交流の充実、②中学校教諭による小学校への乗入授業の充実、③学園評価によるPDCAサイクルの確立。CS関係では、①地域学園協働本部の設立(5月に総会を実施)、②地域協働協力員の実際の活用、③協力員募集活動の継続となります。

ちゅうるい学園 (総会4/15予定)

今年度はコロナ禍のため、多くの取組が中止となりましたので、来年度はしっかり実施します。今年度1回だった6年生の中学校登校は3回の実施を、同じく1回だった相互授業参観は小中学校の参観日を中心に8回の実施を目指します。

このほか、今年度できなかった小中合同新体力テストの実施と食育授業の継続に取り組めます。中1ギャップの解消に向けて、取組をさらに強めていきます。